

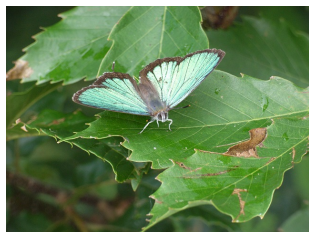
あそびっくす通信

あそびっくす通信 2015-1号(19号)
発行：2016年3月31日
あそびっくす in 東小実行委員会
名張市桔梗が丘 7-1-86
名張市立桔梗が丘東小学校内
編集・発行責任：坂本直司

■ 初夏の生きものウォッチング

今年の1学期週末課外授業は、6月27日(土)桔梗が丘子どもたちと地域の絆づくり事業として、桔梗が丘自治連合協議会の快適環境部会と共催の形で「初夏の生きものウォッチング」を開催。参加者は、公民館周辺の桔梗の森公園を散策し、講師(加納康嗣さん、小川毅郎さん)の説明を聞きながら珍しい動植物を観察しました。大人は、約30名の参加がありましたが、子どもの参加は、残念ながら桔梗が丘南小学校の2名だけで、珍しい蝶「ミドリシジミ」(右写真)を見ることができたものの、多くの植物の話はちょっと難しそうでした。

でも、身近にたくさんの珍しい植物が生育していたことに驚きました。例えば、クヌギは翌年に実る小さな実を既に枝に付けていることを初めて知り、葉をちぎればどこでも必ず矢の形になるというヤハズソウも初めて見ました。



翌年に実るクヌギの実



葉が矢の形にちぎれるヤハズソウ

■ 通学路花いっぱいいっぱい運動

6月27日(土)午後から例年通り地域の皆さんに花の苗を無料で配布しました。「通学路で、花に水をやりながら子ども達を見守ってください」という趣旨のこの事業も、桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校に広がって3年目を迎えました。



ポットへの植替え作業
3,000株とはこれくらい



5月23日の総会の日に実行委員みんなでポットに植替え、その後は毎日学校で管理いただいたマリゴールド、サルビアなどの苗約3,000株を配布。今年は苗の生育が良く、数も十分あり株数制限をしませんでしたが、雨模様だったので参加者がいつもより少なく、かなりの苗が残ってしまいました。

配付の後は、校区内8基の通学路プランターへの植替えを行い、残った苗は公園やバス通り沿いのお宅に配布しました。さらには、生育が良くなかったという桔梗が丘小学校区に使っていただきました。当日は、地域の皆様より23,482円のご寄付とPTAバザーへの寄贈品をいただき、誠にありがとうございました。



多くの参加者で賑わう東小の中庭

■ サマーキャンプ back to school

8月8日(土)午後3時から児童23名、保護者10名が参加して、東小のわくわく棟と中庭でサマーキャンプを実施しました。



作戦会議とKYT(危険予知)



親子で仲良く

今年は耐震工事が終わったため、2年ぶりに学校に戻っての開催で、わくわく棟では、作戦会議から調理の下ごしらえを行ない、昨年からはじめた黄色い紙に危険を予測して記入する危険予知訓練も実施しました。好天にも恵まれ、まき割りから飯盒炊爨、カレー作りを中庭で行うことが出来ました。



ワーッ煙たい!



校長先生と「いただきます」

● 蚊帳(かや)ってなに？

アトラクションは、奥さんによるカブトムシの観察のあと、橋本さんが持ってきてくれた蚊帳の体験をしました。私たちが子どもの頃はどこの家庭にもあって、夏休みの屋下がり、夕立で雷が鳴ると、必ず蚊帳に入れられました。電気を通さないからという理由だったと思いますが、汗だくになった懐かしい思い出です。



蚊帳に入る子どもたち

調べてみると、蚊帳の素材である麻の香りは虫が嫌い、電気も通しにくいのだそうです。今の子どもたちは、そんな蚊帳を見るのも触るのも初めてですから興味津々。最近ではアフリカなどの発展途上国で、蚊から身を守るために日本の蚊帳が重宝されているとか。

● テントの中は別世界！

夏休みといえばキャンプ、キャンプといえば「テント」と夏の定番アイテムだったテントですが、最近では人気が今一つのようにです。今回2つのわくわくルームにそれぞれ一張だけ設置したテントに入って子どもたちは大はしゃぎ。特に電灯を消して懐中電灯だけの明かりになると、まさに別世界。普段テントに入ることなどないでしょうし、友達と一緒に学校でという非日常体験が楽しくないわけはありません。きっと家に帰ってもその興奮を家族の皆さんに話してくれたことでしょう。



教室に張ったドームテント

■ ふるさと歴史ハイキング

サマーキャンプから3か月、晩秋の11月7日(土)には、桔梗が丘自治連合協議会の教育文化部会のふるさと歴史ハイキングに相乗りする形で、2学期週末課外授業を行いました。

● 美旗古墳群巡り

美旗には古墳がたくさんありますが、それぞれの名前と築かれた年代まで知っている人はあまりいないのではと思います。今回は門田先生の臨場感あふれる説明のおかげで、大昔の出来事がつい昨日のように感じられました。

下の写真左が5世紀後半に造られたという前方後円墳の馬塚、右が6世紀初頭の築造と言われる、同じく前方後円墳の貴人塚です。



● 新田用水とサイフォンの原理

今から約360年前に、灌漑用水のため伊賀市高尾から13.5kmに及ぶ水路が開削され、今も稲作には欠かせない大事な水路として残っている新田用水を見学しました。

途中、道路より高いところを通っている用水路ですが、道路の下に潜り、再び元の高さまで水が上がっていく部分があります。今でこそサイフォンの原理だとわかるのですが、江戸時代の人たちがそのことを知っていたとは驚きです。でも、古代エジプトでは紀元前3世紀に既に知られていたであろうという原理だそうです。



写真左の灯籠部分から水路は地下に潜り、道路を隔てた右側の土手の上に再び現れます。「逆サイフォン」というそうです。

■ あそびっくす in 東小 2015

11月21日(土)、土曜授業となったこの日、2限目と3限目を使って、子どもたちと一緒に「むかし遊び」を楽しみました。(12会場で25種目の遊び)

ケイタイもパソコンもテレビゲームも無かった時代、子どもたちは体を動かす遊びの天才でした。人数が多いとき、少ないとき、場所が広いとき、狭いとき、晴れた日、雨の日、どんな場合でも臨機応変に対応して、飽きることなく遊んだものでした。それに比べて最近の子どもは・・・と言うのは間違いです。今でも子どもたちは遊びの天才なのです。



● みんなであやとい

子どもたちに交じって、「昔取った何とか」で、あやとりに熱中するお母さんたち。子どもたちもお互いに教え合っている姿がほほえましく感じられました。毛糸一本で、親子のそして子ども同士のコミュニケーションが図れるのです。



● ゴム飛び

子どもの頃によくやりました。足首、膝、腰、・・・どんどん高さを上げて行って飛び越えます。とてもよく伸びるというゴムの特性を生かしたいろいろな飛び



方があって、最近の子どもたちに分かるかなと思いましたが、そこは「遊びの天才」、すぐにコツを覚えて楽しんでいました。

● コマ回しとメンコ



コマを回すには、まず紐をきつちりと巻かなければなりません。これがなかなか難しい。最近では、日常生活の中で糸や紐、ロープといったものに触れる機会が減り、子どもたちもその経験が不足しているようです。外れたボタンを自分で直したり、靴の紐を結んだり、廃品回収の新聞紙や雑誌を紐で縛ったりと、やれることはいっぱいあるので、ぜひ家庭でも日常経験を積んでほしいと思います。

いと思います。

メンコは、地面との間のどこに隙間があるかを見極める観察眼と鋭い手の振り出しとコントロールが要求される簡単そうで奥が深い遊びです。子どもの頃、ひっくり返されないように蠟を塗ったり 2 枚重ねて糊付けしたり工夫したものです。



● お父さんはケン玉名人！

ケン玉コーナーで子どもたちの羨望の眼差しを受けるこのお父さん。いつからどうやって練習したのかインタビューすればよかったと思っています。それは上手なケン玉さばきで、弟子入りしたいという子がいたのでは。次回はゲストティーチャーとしてお招きしたいくらいです。

今年は、あそびっくす in 東小 2015 のためにケン玉を買い足しました。中でも値段は少し高いですが「日本ケン玉協会」(認定)のシールが貼られているものが、塗装をしていないので、玉が滑らず使いやすかったようです。練習もいい道具でやりたいものです。



● はい手におちゃらか

例えば雨の日、教室の隅で畳半畳ほどの広さがあれば二人で楽しめるこの遊び。なんとも単純ですが、遊びというのは基本的にシンプルなものほど面白いと言われる。ボランティアさんと無心に遊ぶ子どもたちの笑顔を見ていると、地域の中で子どもたちが見守られ、育つことの大切さを感じます。



相手との駆け引きが大事



地域ボランティアさんと

● 足じゃんとかっちむいてホイ

足じゃんとは、足でやるジャンケンのこと。冬に鬼ごっこで鬼を決めるとき、足でジャンケンをするとそれだけで体が温まります。

あっちむいてホイは、ご存知のようにそれほど昔の遊びでは

ありません。まだ30年か40年くらい前に始まったように思います。これは子どもだけでなく、親子でも、また大人同士でも道具もいらず手軽に楽しめる遊びです。よく負ける人は、性格が素直な証拠と胸を張ってください。



チョキ同士であいこです



あっちむいてーホイ！

● 通いゃんせ

♪通いゃんせー、通いゃんせー、こーこはどーこの細道じゃー・・・♪で始まる「通いゃんせ」は、子どもたちには新鮮に映るのでしょうか。写真のようにすぐに馴染んでいました。



● 子どもはスタンプが大好き

今年は時間があるので、子どもたちが全部の遊びを回れるようにスタンプラリーを取り入れました。かわいいスタンプを押してもらおうと、スタッフのところに殺到していました。



スタンプカード



あといくつ残ってる？

● おはじき陣取り

この遊びは4人で対戦出来て、一番広い面積を取った人が勝ちです。欲張らずにコツコツ行くか、一発勝負にかけて大きな面積を狙うか性格が表れます。

昔は、こんな遊びからも生勉強できたのです。



スタッフから教わります

● はじめの一步(だるまさんがころんだ)

名張・青山地方では、少々品が悪いですが「ほんさんがへをこいた」が使われていました。いかにして鬼に見つからずに接近するか、スリル満点の遊びです。最近、これをやるネコがネット動画で有名になったりしています。一般にネコ科の動物は獲物を狙うときにこのような行動をとりますが、本能で備わっているようです。人間でも野性的な人はこれが上手・・・なはず。



鬼のいぬまにダーッ！

● 石けり

いわゆる「ケンケンパッ」です。サッカーやバスケのトレーニングにこれと似たような動きが取り入れられているそうですが、遊びながら足の運び方、バランス感覚、敏捷性が鍛えられるので、一石二鳥です。



教えなくてもバランスを保つため自然と手の動きが出ています

■ 秋の通学路花いっぱい運動

<子どもたちと地域の絆づくり事業>

今年度の三校合同事業も、昨年同様秋の通学路花いっぱい運動を行いました。三校でパンジーの種を 4,500 粒購入し、8 月末から 9 月に播種、10 月にポットへの植替えを実施。学校区によって生育にバラつきがあり、無料配布・プランターへの定植は各校の事情に合わせることにしました。

私たち桔梗東小は、10 月 12 日にボランティアと実行委員の総勢 30 名でポットへの植替えを完了（約 1800 株）しましたが、その後の生育が悪く、株数はかなり減ってしまいました。しかし 11 月 21 日（土）には、大勢の地域の皆さんをお迎えし、何とか無料配布することが出来ました。この日もいつものように多くのご寄付（13,969 円）を頂きありがとうございました。



■ 秦先生のお菓子づくり教室

皆さんご存じの秦先生に 2 年ぶりにご登場いただきました。2 月 27 日（土）家庭科室に集まった児童 21 名、保護者 10 名は、秦先生の見事なお手本と軽妙なトークにあっという間に引き込まれていきました。



この日のメニューは、「中華まん」と「いちごプリン」。先生が考え抜かれたレシピで作る中華まんは、冷めても美味しく、いちごプリンは、時短調理とは思えない美味しさでした。



先生の工夫にはいつも驚かされるのですが、この日驚いた



のは、イースト菌の発酵方法でした。中華まんの生地は、パンのようにふくらさせるためイースト菌を使うのですが、発酵の最適温度とされる 35℃を設備のない家庭科室でどうやるのか気になって



いました。すると答えは簡単、一度沸騰させた蒸し器の火を止め、お湯の余熱で保温することで難なく発酵できたのです。恐れ入りました。道具がないことが、頭を使って工夫することに繋がったのです。皆さん、見習いましょう。

上手くてたいちごプリン



親子でいただきます！

親子で、友達と、先生と、おしゃべりしながらのお菓子作りはとっても和やかな雰囲気。そしてお腹が大きくなると自然に笑顔になれるのでした。

▼ 編集後記

今回は、NHK 朝ドラの中にとってもいいお話が出てきましたので拾い上げてみました。子育ての参考に。

1) ファーストペンギンの話（五代さんのセリフ）

みんなが海に飛び込むのをためらっているときに必ず一番に飛び込むペンギンがいる。それをファーストペンギンという。ファーストペンギンが飛び込んだ後には他のペンギンたちが次々と海に飛び込んでいく。何事も、最初に勇気を出して未知の世界に飛び込む人が必要。

2) 紀州のミカンの木の話（はつさんのセリフ）

太くて頑丈な木にはミカンがたくさん実るが、強い台風が来ると折れてしまう。その反面、細くて弱々しい木にはミカンは少ししか実らないが、台風の風にも枝がしなって折れることがない。世の中にはどちらも必要。

3) 大人になる前にはサナギの時期が必要（あさのセリフ）

学校が無かった昔、女の子は年ごろになると嫁に行ったが、これは子どもから一足飛びに大人になったようなもの。それは青虫がいきなり蝶になるがごとくで、学校というものは、青虫と蝶の間のサナギでいられる時期を子どもたちに与えてくれる。この時期に知識や体力を身に付けて大人になる準備をすることができる、だから学校は大事である。

※) ブログにも情報を載せていますので、下記 URL をご覧ください。<http://asobixtuku.com/> または、「あそびっくす in 東小」で検索。

地域の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様、講師の皆様、本年度関わっていただいたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。来年度もよろしくお願い致します。